

お お ぞ ら

No.171

聖隷福祉事業団への法人移管後は54号

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
総合病院 聖隷三方原病院
聖隷おおぞら療育センター

〒433-8558
静岡県浜松市北区三方原町3453
TEL 053-437-1467

発行責任者 荻野和功
編集者 横地健治

2015年12月1日

70cmの距離

横地 健治

重症心身障害児(者)は自分で行きたい所へ移動することはできません。その多くは、寝返りもできないばかりか、顔の向きを変えることもできません。そうすると、自分で見たいものを選ぶことはできず、介護者によって取らされた姿勢によって、見る世界は決まってしまいます。ただ寝かされているだけなら、一日中天井を見て過ごすことにもなりかねません。このことは、健常者が四六時中首を動かして、注視点を変えているのとは大違いです。介護者は、本人の見たいものを察して、居場所を変え、姿勢と顔の向きを変えねばならないことになります。

重症心身障害の成人にもあてはめれば、二人が互いに関心を持ち合うのに適した距離は70cmだということになります。もちろん、この距離に居ても、常時互いに関心を持ち合うこととはありません。対面した相手以外に注意が行き、またその相手に注意が戻ることを繰り返し返しているはずで、なお、小児では体格が小さいので、

この距離は70cmよりは短いはずで、
健常幼児(2〜3歳)には「平行遊び」をする時期があります。互いに関わらないが、近くに居て同じような遊びをすることです。この平行遊びする子同士の離れ具合もだいたい決まっているはずで、現在、当施設にはこの平行遊びをする子たちがいます。歩けないが、自力で床を移動できる子たちです。二人は、近くで(50cm〜1m)、同じおもちゃで遊んでいます。同じおもちゃで向かい合って遊ぶことはありません。ただし、おもちゃを持って相手を叩いたことはあります。これは喧嘩ではなく、愛着表現のひとつと考えています。危険な行為でしたが、叩ける距離に居たことに重要な意味があると考えます。この近い距離に居て、直接的な交流はしませんが、互いを好意的に意識する関係を持つているようにみえます。これは今後発展する信頼・愛情といった人間関係の萌芽であると私は考えます。

い人で、互いに関心がありそうな二人は、70cmの距離で、向かい合って過ごすのがいいということですが、この70cmは腕を伸ばせばあたる距離なので、健常者の臥位姿勢ではずんぶん密着している感じがするはずで、二人の健常者が70cmの間をとって立つ場合、相手を殴ろうとすれば殴れる距離ですし、握手もしやすい距離です。顔の向きも変えられない重症心身障害児(者)では、上肢の運動障害もあるため、70cm離れた隣の人に手を伸ばして触れることはありません。よって、こうした人が70cmの間隔で横になっても、密着しすぎるわけではないと思います。

重症心身障害児(者)は、自分で行きたい所へ移動することはできません。その多くは、寝返りもできないばかりか、顔の向きを変えることもできません。そうすると、自分で見たいものを選ぶことはできず、介護者によって取らされた姿勢によって、見る世界は決まってしまいます。ただ寝かされているだけなら、一日中天井を見て過ごすことにもなりかねません。このことは、健常者が四六時中首を動かして、注視点を変えているのとは大違いです。介護者は、本人の見たいものを察して、居場所を変え、姿勢と顔の向きを変えねばならないことになります。

重症心身障害の成人にもあてはめれば、二人が互いに関心を持ち合うのに適した距離は70cmだということになります。もちろん、この距離に居ても、常時互いに関心を持ち合うこととはありません。対面した相手以外に注意が行き、またその相手に注意が戻ることを繰り返し返しているはずで、なお、小児では体格が小さいので、

この距離は70cmよりは短いはずで、
健常幼児(2〜3歳)には「平行遊び」をする時期があります。互いに関わらないが、近くに居て同じような遊びをすることです。この平行遊びする子同士の離れ具合もだいたい決まっているはずで、現在、当施設にはこの平行遊びをする子たちがいます。歩けないが、自力で床を移動できる子たちです。二人は、近くで(50cm〜1m)、同じおもちゃで遊んでいます。同じおもちゃで向かい合って遊ぶことはありません。ただし、おもちゃを持って相手を叩いたことはあります。これは喧嘩ではなく、愛着表現のひとつと考えています。危険な行為でしたが、叩ける距離に居たことに重要な意味があると考えます。この近い距離に居て、直接的な交流はしませんが、互いを好意的に意識する関係を持つているようにみえます。これは今後発展する信頼・愛情といった人間関係の萌芽であると私は考えます。

い人で、互いに関心がありそうな二人は、70cmの距離で、向かい合って過ごすのがいいということですが、この70cmは腕を伸ばせばあたる距離なので、健常者の臥位姿勢ではずんぶん密着している感じがするはずで、二人の健常者が70cmの間をとって立つ場合、相手を殴ろうとすれば殴れる距離ですし、握手もしやすい距離です。顔の向きも変えられない重症心身障害児(者)では、上肢の運動障害もあるため、70cm離れた隣の人に手を伸ばして触れることはありません。よって、こうした人が70cmの間隔で横になっても、密着しすぎるわけではないと思います。

重症心身障害児(者)は、自分で行きたい所へ移動することはできません。その多くは、寝返りもできないばかりか、顔の向きを変えることもできません。そうすると、自分で見たいものを選ぶことはできず、介護者によって取らされた姿勢によって、見る世界は決まってしまいます。ただ寝かされているだけなら、一日中天井を見て過ごすことにもなりかねません。このことは、健常者が四六時中首を動かして、注視点を変えているのとは大違いです。介護者は、本人の見たいものを察して、居場所を変え、姿勢と顔の向きを変えねばならないことになります。

重症心身障害の成人にもあてはめれば、二人が互いに関心を持ち合うのに適した距離は70cmだということになります。もちろん、この距離に居ても、常時互いに関心を持ち合うこととはありません。対面した相手以外に注意が行き、またその相手に注意が戻ることを繰り返し返しているはずで、なお、小児では体格が小さいので、

この距離は70cmよりは短いはずで、
健常幼児(2〜3歳)には「平行遊び」をする時期があります。互いに関わらないが、近くに居て同じような遊びをすることです。この平行遊びする子同士の離れ具合もだいたい決まっているはずで、現在、当施設にはこの平行遊びをする子たちがいます。歩けないが、自力で床を移動できる子たちです。二人は、近くで(50cm〜1m)、同じおもちゃで遊んでいます。同じおもちゃで向かい合って遊ぶことはありません。ただし、おもちゃを持って相手を叩いたことはあります。これは喧嘩ではなく、愛着表現のひとつと考えています。危険な行為でしたが、叩ける距離に居たことに重要な意味があると考えます。この近い距離に居て、直接的な交流はしませんが、互いを好意的に意識する関係を持つているようにみえます。これは今後発展する信頼・愛情といった人間関係の萌芽であると私は考えます。

い人で、互いに関心がありそうな二人は、70cmの距離で、向かい合って過ごすのがいいということですが、この70cmは腕を伸ばせばあたる距離なので、健常者の臥位姿勢ではずんぶん密着している感じがするはずで、二人の健常者が70cmの間をとって立つ場合、相手を殴ろうとすれば殴れる距離ですし、握手もしやすい距離です。顔の向きも変えられない重症心身障害児(者)では、上肢の運動障害もあるため、70cm離れた隣の人に手を伸ばして触れることはありません。よって、こうした人が70cmの間隔で横になっても、密着しすぎるわけではないと思います。